

ついじまつ COMMUNICATION

20

ついじまつコミュニケーション: 築地松情報誌2004.3月

発行一築地松景観保全対策推進協議会

その様子は、まるで母親のような大きな築地松が、幼子であるコハクチョウの食事を優しく見守っているかのように見える。



深緑の築地松の傍に白いコハクチョウの群れ。晩冬から春先に見かける風景であるが、対照的な色のコントラストが印象的である。

コハクチョウは毎年冬になると、遠くシベリアから越冬のため穴道湖やその周辺水辺に飛来してくる。そして毎日出雲平野の水田にエサをついばみにやってくる。



『陰手刈り技術伝承個別講習』が実施されました。

築地松景観保全対策推進協議会では、陰手刈り技術研修会（平成15年度までに3回実施）に参加された方を対象に、個別講習会を開催しました。この講習会は、熟練した現役の職人さんからマンツーマンで指導を受けることにより、陰手刈り職人の技術向上や後継者育成を図るのが目的で、今回が初めての試みです。

『陰手刈り技術伝承個別講習』は、5人の研修生に対し、計5回実施されました。そのうち第3回目の会場は、大社町の北井様宅で行われました。当日講師を務めたのは、例年の陰手刈り技術研修会でもおなじみの金本武夫さん（出雲市在住・77歳）。緊張した面持ちで参加した2名の受講者に対し、時折ユーモアを交えながら、きめ細やかに陰手刈り技術の詳細を指導していました。

受講者の田中俊雄さん（平田市・庭師）は、仕事柄、築地松の手入れを依頼されることが多いことから、本格的に陰手刈りの技術を習得しようと今回参加されました。「陰手刈りという仕事は、小さな草木の手入れと違い、感覚で全体像を把握しながら作業する点が難しいと痛感しています。せっかく覚えた技術なので、今後もこの仕事に長く関わり、腕を磨きたいですね。そして、いつか次世代の人たちにも技術を継承していきたいと思います。」と話してくれました。また、もう1人の受講者・青木茂さん（斐川町・農業）は、ご自宅の築地松を長年手入れしてくれていた職人さんの引退を機に、自分で手入れできるようになりたいと思い立ち、受講を志願しました。「実際に作業を経験し、長い柄の陰手刈り鎌の扱い一つをとってみても、長い経験に裏打ちされたテクニックが必要だと感じました。まだ思うようにいきませんが、早く技術を身に付けて、築地松保護のお手伝いのできたら良いですね。」と、抱負を語られました。

講師の金本さんは、陰手刈りの仕事に欠くことのできない心得として、①勤勉さ、②綿密さ、③技術習得への執念の三つをあげています。そして、「三つの心得を達成するには、“習うより慣れる”の精神が大切です。これからの方々に、陰手刈りという仕事を世界遺産にでも残せる立派な技術に育てるという位の意気込みを持ち、男のロマンを感じながら携わってほしい。」と、後継者たちに寄せる期待を、ご自身の言葉で表現してくださいました。



講師さんのコメント



金本武夫先生
（出雲市在住・77歳）

この個別講習は、後継者の育成はもちろん、陰手刈りを後生に伝える大切な“技術”として残すべくスタートしました。

わたしは、この仕事に大事なものとして、1. 勤勉さ。2. 緻密さ。3つめには、どんなことをしてもこの技術を修得してみせる！という執念が必要だと考えています。そして、この3つの心得を達成するには、『習うより慣れる』の精神が大切です。これからの方々に、陰手刈りという仕事を世界遺産にでも残せる立派な技術にしてやろうという、男のロマンを感じながらたずさわって欲しいですね。

研修生のコメント



田中俊雄さん
（平田市・庭師）

仕事柄、築地松の手入れも依頼されることが多く、そのたびに、陰手刈りの難しさを痛感していました。そこで、基礎からきちんと習おうとこの研修に参加しました。築地松は、この地方が誇る大切な文化遺産です。これから芸術的な景観として守るべきものです。陰手刈りという仕事は、小さな草木の手入れと違い、感覚で全体像を把握し、作業しなければならないので、とにかく熟練が必要です。せっかく覚えた技術なので、今後もこの仕事に長く関わり、さらに腕を磨き、わたしたちの次の世代にも伝えていきたいと思います。



青木茂さん
（斐川町・農業）

我が家にも築地松があるんですが、長年、お世話になっていた職人さんが引退されたのを機に、「自分で手入れしてやろう！」と思い立ち、技術を身につけるため、今回初めて参加しました。実際に作業をしてみると、講師の方々や、先輩方のおっしゃるとおり、下から見上げると、上で作業するのは、まったく違うのが、陰手刈りの難しいところです。長い柄の陰手刈り鎌の扱いも、長い経験に裏打ちされたテクニックが必要です。まだ始めたばかりで、思うようにいきませんが、早く技術を身につけて、築地松保護のお手伝いのできたらいいですね。

The life with the Tsuijimatsu

築地松のある生活

樋野良吉さん・康子さんご夫妻（斐川町・莊原）



害虫に負けないクローン松苗がただいま成育中！



出雲空港にほど近い斐川町・莊原。この地で代々農業を営む樋野さんのお宅におじゃましました。母屋を取り囲む庭先の木々たち。細やかに手入れされ、いきいきと生命を育む様子は、訪れる者の目をなごませてくれます。樋野さんは、農作業のかたわら造園業にも従事しておられ、ご自身も陰手刈りの職人として、自宅や親類宅の築地松の手入れに携わっています。農閑期の1月～4月には、年間15軒ほどの築地松の手入れに追われておられます。

4代目当主の樋野さんにとって、母屋の西側に植えられた10本の築地松は、生まれた時から慣れ親しんだ存在でした。しかし、出雲平野一帯で発生した松食い虫の被害で、幹の直径が50cmもあるようなクロマツの太木が、5本ほど枯れて

しまいました。「ご近所でも同様の被害が出て、ほとんどのお宅が築地松を取り払ってしまいました。わが家でも悩みましたが、強い西風から家屋を守ってくれる築地松は、無くてはならないもの。クロマツの代わりに害虫に強い雑木を植えて、築地松を保とうと考えました。」

今から6年前のこと。樋野さんの元に、県の景観自然課からとある依頼が届きます。松食い虫の被害対策として、大田森林組合が三瓶山で育成したクロマツを試験的に植えてみないかという内容でした。その名も“クローン松苗”。一といっても、山林内で松食い虫に高い抵抗力を持つ松の苗木を育苗したもので、100%天然の素材です。県では平成12年度から、このクローン松苗の配布を開始していますが、その前に斐川町の樋野さんをはじめ、平田市・出雲市を含む3軒の築地松で、試験的な導入にチャレンジしたのです。

樋野さんのお宅に植えられたのは、当時高さ5～60cmの3本の苗木です。樋野さんは、強い西風にあおられても真っ直ぐ育つようにと、竹の添え木で固定して育てています。築地松の間に点在する3本の苗木は、今では4m以上の高さに伸びました。「わが家では雑木と一緒に植わっているの、他の2軒のお宅よりは成育が遅いかもかもしれません。それでも、生命力の強さはじゅうぶんに見てとれますね。」と、手応えを感じておられます。



「ゆくゆくは、本来の築地松の姿に戻したい。」と願う樋野さんご夫妻。雑木を植えてわかったことは、クロマツに比べ成育が早いことでした。「クロマツの築地松は、地域の気候や風土の中で自然に育まれてきたものだ」と実感しています。この辺りは空港に近いのですが、築地松は防音効果もあるんですよ。」と、奥様の康子さんが教えてくれました。しなやかなクロマツの若木は、樋野家の期待と愛情を一心に受けとめながら、ただ今すくすくと育っています。

※注／平成12年度の導入以来、クローン松苗の配布は年々増加し、平成15年度は出雲市・平田市・斐川町・大社町全体で、合計1280本が配布されました。ただし、従来は大田森林組合からのみ松苗を購入していましたが、苗の育成具合が不安定なため、平成14年度からは福岡県森林組合の「筑前スーパークロマツ」を併せて購入し、配布しています。



レター / a Letter

はじめは、協議会に入った一本の電話でした。かわいい声の主は、益田市の小学生、日下真由子さん。「学校で築地松の勉強をしているのだけれど、昨年度配られた築地松下敷きが余っていたら送ってほしい。」という内容でした。日下さんは、昨年度まで出雲に住んでいましたが、お父さんの転勤でこの春から益田市内に住まいを移されました。お引越しをする際、築地松下敷きをうっかりなくしてしまったのだそうです。（※下敷きは、出雲市、平田市、斐川町、大社町の全小学生にお配りしています）。さっそく協議会から下敷きをお送りしましたところ、お礼の手紙をいただきましたので、ご紹介します。

（※以下、原文のまま掲載します）

『こんにちは。電話でつい地松の下敷きを送っていただくようお願いした、日下真由子です。ありがとうございました。いろいろしりょうが集まって、2月10日に発表しました。下敷きに書いてあったクイズでたのしかったです。私たちもつい地松がいろいろ分かってよかったと思います。出雲平野にしか見られない宝物を大切にしてください。それが私達の願いです。（実は2人でやっていて、私が代表で電話をしました。）ここ、益田市から見守っています。それでは、さようなら。』

真由子さんのお便りは、出雲地方の外にも築地松に思いを寄せる人達がいることを実感させてくれる、嬉しいものでした。また、下敷き配布を通じて、地域の子供たちに“築地松はふるさと出雲を代表する景観”という認識が着実に芽生えていることを、真由子さんのメッセージは伝えています。協議会では、今後もこうした応援団をどんどん増やし、交流の輪を広げていきたいと考えています。みなさんも、築地松についてご意見やご質問がございましたら、この情報誌の最終ページ下段の協議会連絡先まで、お気軽にご連絡ください。お待ちしております。

『ふるさとの風景

築地松！みどころマップ

』ができました。

築地松景観保全対策推進協議会では、築地松をより美しくみることのできる景観スポットを紹介するパンフレットを作成しました。見慣れている築地松もふと足を止め、風景にとけ込んだその姿をあらためてみると、新しい発見があるかもしれません。

「ふるさとの風景 築地松！ みどころマップ」は、斐川町在住のカメラマン・古川誠さんが教えてくれる、とっておきの築地松景観スポットを掲載しています。季節の移り変わりによっても様々な表情をみせる築地松景観を、ぜひカメラを持ってでかけてみてはいかがでしょうか。

主要観光施設等でごらんになれます。詳しくは各市町の役場担当課（下部参照）または島根県景観自然課にお問い合わせください。



築地松風景との一期一会

築地松みどころマップ



懐かしい築地松の写真が 残っていませんか？

募集！



▲昭和40年頃の出雲長浜地区での田植え風景

築地松景観保全対策推進協議会では、築地松が入った懐かしい風景写真を集めています。

写真をお送りいただいた方には粗品をプレゼント！
お送りいただいた写真は、「懐かしの築地松景観」として、築地松コミュニケーション誌上で順次紹介していく予定です。

※返却が必要な場合は「返却希望」と明記してください。

送り先：島根県景観自然課または市町役場担当課あてにお送りください。なお、写真には、その写真をお撮りになった大体の場所と時期、及び簡単なコメントを添えてください。



▲昭和40年頃の斐川町の民家

築地松景観保全対策推進協議会

島根県環境生活部景観自然課 〒690-8501 松江市殿町1番地
島根県出雲総務事務所 〒693-8511 出雲市大津町1139
出雲市都市整備部都市計画課 〒693-8530 出雲市今市町109-1
ついじまつホームページアドレス http://www.pref.shimane.jp/section/keikan_shizen/keikan/

電話 0852-22-6143 平田市建設経済部農林水産課
電話 0853-23-1515 斐川町環境政策課
電話 0853-21-2211 大社町まちづくり推進課

〒691-8801 平田市平田町951-1 電話 0853-63-5545
〒699-0592 斐川町大字莊原町2172 電話 0853-73-9258
〒699-0792 大社町大字杵築南1395 電話 0853-53-5557